

史実の発見

歴史研究の醍醐味の一つは、正しいと考えられている学説(史実)を書き改めることにある。そのためには、二つの方法がある。一つは、通説に用いられている周知の史料を新しい分析視角から解釈し、見過ごされた論点を叙述して歴史像を豊かにするやり方である。これはかなり熟練した史料解釈能力と思考の柔軟さが求められる。もう一つは、通説が成立した時点では参照されなかった新しい史料を発掘し、それをもとに書き改める方法である。だれも疑わなかった史実が、たった一つの史料でくつがえったことは、これまでの歴史研究でいくつもの事例はあるのである。この方法は、前者にくらべれば容易なことのように思える。

ところが、史実を書き改めることができる史料に出会うことは、一生のうちに一度も経験できない人々がほとんどである。常に問題関心を拡げておく忍耐力がないと、幸運の女神は微笑まないものである。

本年度の企画展は、その意味で女神様の恩寵にあずかったようなものである。ここで出展している史料は、これまで学界でも未知のものであり、本邦初公開というものがほとんどである。これらの史料群は、たんに近江商人研究を飛躍的に進められることにとどまらず、戦前期日本における商業史、貿易史、商社史などの通説を書き改め、より豊かな歴史を提供できるものである。さらには、総合商社伊藤忠商事・丸紅の前史と戦後の経営史を解明するうえでも貴重な情報が含まれており、現在、史学界で垂涎的となっているものである。それゆえ、これらの史料群を当史料館にお預けいただいた伊藤忠兵衛家・長兵衛家・丸紅株式会社・伊藤忠商事株式会社のご好意には、深甚の感謝の念を持たなければならない。

(附属史料館長 宇佐美英機)